

一般質問

森の幼稚園の実現は



太陽クラブ

大橋 保治

問 全国各地の幼稚園や保育園で取り組まれている森の幼稚園は、近くの里山に出かけ自然や地域の方とふれあい、自然や友達を大切にすることを育てることを目指している。

答 現在、27年度からの実施に向けて取り組んでいます。また、今後の方針は、市内の里山については、東近江市にぎわい里山づくり条例により認定されている21団体によって、里山を保全していただいています。

また、研修などを通じて、園の職員や地域の方々に協力をお願いすることも考えています。

当市の56%は森林であり、自然を生かした子育て環境の創出ができれば良いと考えています。

地域の人たちが手入れした里山に、地域の子どもが入ることに意義があると考えています。27年度は1園で先行実施



地域住民により整備されている里山

問 景観の向上や災害への対応、観光面からも電線の地中化に取り組むべきでは。

答 八日市駅前土地区画整理事業において、電線の地中化を実施しましたが、工事費用が高額となることや電線設置事業者の事業負担金が発生すること、地上施設を設置する場所の確保等に地域の理解が得にくいことなどの課題があり、その後は取り組んでいません。しかし、防災・減災の視点や、全国的にも地中化によって商店街や観光地が発展している事例もありますので、今後検討が必要と考えています。

国においても、これらの事業推進を行う過程での課題や問題点を認識しており、構造的指針や財政支援の必要性など、現在制度設計を進めているところであり、動向を注視してまいります。

まだ残る地域課題



太陽クラブ

北浦 義一

問 能登川コミセンは、27年秋に能登川支所へ施設が移転統合されるが、現コミセン跡の活用は。

答 現能登川コミセンに隣接する能登川南小学校は、児童数約670人の大規模校にもかかわらず、市街地に立地していることから、校内外で学校が使用できる駐車場は約40台しかありません。職員の自動車だけで満車となり、来客用の駐車場も確保できない状況で、学校行事や教職員の研修会等の開催に支障をきたしています。

一方、JR能登川駅東口周辺地区整備の考え方の中でも、コミセン跡地の活用も検討していくとしています。

今後、関係機関と連携しながら、過去の経緯を踏まえ、有効的な土地利用について検討したいと考えています。

問 能登川南こどもの家は、児童が急増しているが、今後の対応は。

答 能登川南こどもの家は、2クラブで計104人の児童が利用しており、適正規模を若干超過しています。今後は、将来的な児童数の増減を慎重に見極め、緊急性の高いものから順次整備を行います。



まもなく動く まちのシンボル

問 能登川地区は豊富な水を活かし産業が発展してきたことから、水車のまちとしてまちづくりが行われてきた。

多くの水車が故障したままになっているが、水車は観光資源の一つと考

える。これら機能していない水車の対応策は。

答 止まっている水車はきぬがさトンネルにある水車、能登川駅西口広場の水車、カヌーランドにある大水車です。カヌーランドの大水車については、長期間放置できないことから3月中旬に修理する予定です。

他の水車については、調査して、対応方法、時期の判断を行います。